

齋藤 茂吉 (さいとう もきち)

1882年～1953年

山形県金瓶村に生まれる。1896年14才にて上京。親類の齋藤紀一の病院に寄宿し、のちにその娘の輝子と養子縁組。西欧留学ののち、「帝国脳病院」を継承。1913年(大正2)『赤光』を出版し、丈壇歌壇の賞讃を一身に受け、アララギの総帥として明治、大正、昭和の歌壇に君臨した。東北人特有の強靱な精神力を以って「愛と自然」を詠い上げ、少年の如き純粋な70年の生を生きた。

雁部 貞夫 (かりべ さだお)

1938年、東京の向島生まれ。

アララギの土屋文明、宮地伸一に師事。現在はアララギの後継誌「新アララギ」の代表。歌集に「崑崙行」「辺境の星」「琅玕」「わがヒマラヤ」、近著に「鮎」がある。作歌の傍ら登山、のちにはヒマラヤ(ヒンドウ・クシュ)の踏査を重ねる。その分野での写真集、研究書を多く出版している。

本多 稜 (ほんだ りょう)

1967年、静岡県浜松生まれ。

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(修士)に学ぶ。

経済、実業の世界で生きつつ、傍ら本場のヨーロッパ・アルプスで登山に励み、以後世界各地の山々を登攀、踏査を続行。

第一歌集『蒼の重力』(2003年 現代歌人協会賞)。その後も多くの歌集を上梓、多数の賞を受けている。近年の著書に『本多稜歌集』(2023年 砂子屋書房)

— この本は多くの歌集から抜粋。歌集『時尅』(2024年 本阿弥書店)。

第3回 桜匠館イベント

齋藤茂吉を読む会

11月2日(土)

開場 13:30

開演 14:00

カンザキ建設・建築資料館 桜匠館

〒168-0065 東京都杉並区浜田山4-10-8

電話:03-3397-1150(担当:神崎節子)

月讀此光深き
山中に佛法僧と
いふ身筆は葉